

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年2月8日

上場会社名 株式会社SANKYO 上場取引所 東
 コード番号 6417 URL <https://www.sankyo-fever.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 明彦
 問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員管理本部長 (氏名) 大島 洋子 TEL 03-5778-7777(代)
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	70,344	71.6	20,033	371.0	20,851	311.9	16,949	313.0
2021年3月期第3四半期	41,000	△33.6	4,253	△59.7	5,061	△55.5	4,104	△68.3

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 16,651百万円(174.2%) 2021年3月期第3四半期 6,072百万円(△56.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	277.42	274.76
2021年3月期第3四半期	67.08	66.45

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	317,466	273,296	85.6
2021年3月期	292,104	268,887	91.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 271,695百万円 2021年3月期 267,121百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	75.00	-	75.00	150.00
2022年3月期	-	50.00	-		
2022年3月期(予想)				50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	83,600	43.8	20,500	211.2	21,400	185.8	17,200	199.2	283.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期3Q	69,597,500株	2021年3月期	69,597,500株
2022年3月期3Q	9,876,215株	2021年3月期	8,412,575株
2022年3月期3Q	61,096,691株	2021年3月期3Q	61,180,978株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種率の高まりや感染症対策により、新規感染者数が減少傾向となり経済活動が持ち直しの動きを見せておりましたが、新たな変異株出現により再流行への懸念が高まるなど、先行きは不透明な状況にあります。

当パチンコ・パチスロ業界では、感染症拡大が長期化していることもあってパーラーの稼働回復に時間を要していることに加え、世界的な半導体をはじめとした部品不足の影響により、遊技機の供給が不安定となるなど、厳しい経営環境を強いられておりますが、2022年1月末の旧規則機撤去期限の到来による一定の入替需要に支えられ、パチンコ・パチスロともに感染症の影響を大きく受けた前年同時期を上回る販売台数で推移しております。

当社グループでは、当第3四半期連結累計期間におきまして、パチンコ機7タイトル（リユース機等を除く）、パチスロ機2タイトルを発売いたしました。パチンコ機においては、8月リリースの「フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン」がパチンコ市場を牽引する好調な稼働を見せていることから、追加受注をいただくヒットとなり、部品調達難の中、増産分の部品確保に全力で取り組んだ結果、計画を上回る販売台数を積み上げることができました。また、12月リリースのシリーズ第15弾「新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～」が4万台を超えるヒットとなり、導入後の稼働も好調に推移するなど、当社グループの販売は堅調に推移いたしました。一方、パチスロ機においては、12月に当社グループから初となる6.2号機「パチスロ 戦姫絶唱シンフォギア 勇気の歌」を発売いたしました。

以上の結果、売上高703億円（前年同四半期比71.6%増）、営業利益200億円（同371.0%増）、経常利益208億円（同311.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益については、投資有価証券の売却による特別利益の計上もあり169億円（同313.0%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

(パチンコ機関連事業)

パチンコ機関連事業につきましては、売上高617億円（前年同四半期比66.7%増）、営業利益224億円（同129.2%増）、販売台数138千台（前年同四半期は86千台）となりました。

主な販売タイトルは、SANKYOブランドの「フィーバー機動戦士ガンダムユニコーン」（2021年8月）、「フィーバーマクロスフロンティア4」（2021年10月）、Bistyブランドの「宇宙戦艦ヤマト2202 愛の戦士たち」（2021年7月）、「新世紀エヴァンゲリオン～未来への咆哮～」（2021年12月）、JBブランドの「J-RUSH5」（2021年11月）であります。

(パチスロ機関連事業)

パチスロ機関連事業につきましては、売上高56億円（前年同四半期比231.8%増）、営業利益5億円（前年同四半期は21億円の営業損失）、販売台数は12千台（前年同四半期は4千台）となりました。

販売タイトルは、SANKYOブランドの「パチスロ マクロスデルタ」（2021年4月）、「パチスロ 戦姫絶唱シンフォギア 勇気の歌」（2021年12月）の2タイトルであります。

(補給機器関連事業)

補給機器関連事業につきましては、売上高27億円（前年同四半期比35.8%増）、営業利益89百万円（前年同四半期は52百万円の営業損失）となりました。

(その他)

その他につきましては、売上高1億円（前年同四半期比25.4%減）、営業利益28百万円（同34.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は3,174億円であり、前連結会計年度末と比べ253億円増加しました。これは主に、現金及び預金が42億円、繰延税金資産（投資その他の資産「その他」に含む）が19億円、投資有価証券が18億円それぞれ減少となりましたが、受取手形、売掛金及び契約資産が273億円、有償支給未収入金（流動資産「その他」に含む）が61億円それぞれ増加したことによるものであります。

負債は441億円であり、前連結会計年度末と比べ209億円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金が93億円、電子記録債務が43億円、未払金（流動負債「その他」に含む）が39億円、未払法人税等が28億円それぞれ増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末と比べ44億円増加しました。これは主に、配当の支払い76億円、自己株式の取得47億円、その他有価証券評価差額金が2億円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益を169億円計上したことによるものであります。この結果、純資産は2,732億円となり、自己資本比率は5.8ポイント減少し、85.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の動向等を踏まえ、2021年5月13日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。パチンコ機の予想販売台数は154千台から163千台、パチスロ機の予想販売台数は30千台から22千台に見直しております。詳細につきましては、本日別途開示いたしました「2022年3月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	88,872	84,616
受取手形及び売掛金	10,867	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	38,213
有価証券	134,999	134,999
商品及び製品	7	65
仕掛品	102	—
原材料及び貯蔵品	4,159	5,257
その他	4,334	9,625
貸倒引当金	△0	△2
流動資産合計	243,343	272,777
固定資産		
有形固定資産	26,556	26,402
無形固定資産		
その他	96	165
無形固定資産合計	96	165
投資その他の資産		
投資有価証券	15,599	13,737
その他	6,523	4,396
貸倒引当金	△14	△13
投資その他の資産合計	22,108	18,121
固定資産合計	48,761	44,688
資産合計	292,104	317,466
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,664	12,975
電子記録債務	4,830	9,198
未払法人税等	509	3,394
賞与引当金	749	369
株主優待引当金	105	105
その他	4,956	9,888
流動負債合計	14,815	35,932
固定負債		
退職給付に係る負債	5,010	4,989
資産除去債務	75	75
その他	3,314	3,171
固定負債合計	8,401	8,236
負債合計	23,216	44,169

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,840	14,840
資本剰余金	23,750	23,750
利益剰余金	254,138	263,325
自己株式	△31,767	△36,082
株主資本合計	260,961	265,832
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,142	5,858
退職給付に係る調整累計額	17	3
その他の包括利益累計額合計	6,160	5,862
新株予約権	1,766	1,601
純資産合計	268,887	273,296
負債純資産合計	292,104	317,466

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	41,000	70,344
売上原価	19,428	30,471
売上総利益	21,572	39,872
販売費及び一般管理費	17,319	19,838
営業利益	4,253	20,033
営業外収益		
受取利息	92	62
受取配当金	550	521
その他	174	236
営業外収益合計	816	820
営業外費用		
投資事業組合運用損	2	1
その他	5	1
営業外費用合計	8	3
経常利益	5,061	20,851
特別利益		
投資有価証券売却益	290	2,667
関係会社株式売却益	—	13
ゴルフ会員権売却益	—	5
特別利益合計	290	2,686
特別損失		
固定資産廃棄損	21	28
関係会社株式売却損	16	—
ゴルフ会員権売却損	—	2
特別損失合計	37	30
税金等調整前四半期純利益	5,314	23,507
法人税、住民税及び事業税	536	4,456
法人税等調整額	672	2,101
法人税等合計	1,209	6,557
四半期純利益	4,104	16,949
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,104	16,949

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	4,104	16,949
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,980	△283
退職給付に係る調整額	△11	△13
その他の包括利益合計	1,968	△297
四半期包括利益	6,072	16,651
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,072	16,651
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年11月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,581,300株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が4,760百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が36,082百万円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結範囲の重要な変更)

第2四半期連結会計期間において、連結子会社であったインターナショナル・カード・システム株式会社は、清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下の通りであります。

① 有償支給取引(買い戻し契約)

有償支給取引について、従来は、有償支給した部材等について消滅を認識しておりましたが、当該取引について買い戻す義務を負っていることから、有償支給した部材等について消滅を認識しないことといたしました。

また、従来は、得意先から有償支給される部品・材料を有償支給元への売り戻し時に売上高と売上原価を計上しておりましたが、加工代相当額のみを純額で収益として認識する方法に変更しております。

② 返品権付き取引

返品権付きの製品・商品について、変動対価に係る定めに従い、返品されると見込まれる製品・商品の収益を販売時に認識しない方法に変更しております。

③ 製品・商品の販売に係る収益認識

リユース機の販売について、従来は、顧客からの下取り機の回収の対価を売上原価として計上しておりましたが、売上高から控除する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は255百万円減少し、売上原価は210百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ45百万円減少しております。また、利益剰余金の期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	パチンコ機 関連事業	パチスロ機 関連事業	補給機器 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	37,052	1,698	2,049	40,800	200	41,000	—	41,000
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	37,052	1,698	2,049	40,800	200	41,000	—	41,000
セグメント利益 又は損失(△)	9,799	△2,157	△52	7,588	21	7,609	△3,356	4,253

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、モバイルコンテンツサービス、不動産賃貸、一般成形部品販売等の事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門に係る一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	パチンコ機 関連事業	パチスロ機 関連事業	補給機器 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	61,777	5,635	2,782	70,194	149	70,344	—	70,344
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	61,777	5,635	2,782	70,194	149	70,344	—	70,344
セグメント利益	22,459	539	89	23,088	28	23,117	△3,083	20,033

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸、一般成形部品販売等の事業であります。

2 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門に係る一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「パチンコ機関連事業」の売上高は100百万円減少、セグメント利益は3百万円減少し、「パチスロ機関連事業」の売上高は80百万円減少、セグメント利益は41百万円減少し、「その他」の売上高は75百万円減少しております。